

R&S InstrumentView (FSH, FPH, ZVH用) 操作手順書



Rev 1

ローデ・シュワルツ・ジャパン株式会社



InstrumentView操作手順

1. InstrumentViewの起動
2. FSH(FPH、ZVH)とPCの接続
3. FSH(FPH、ZVH)メモリ内データの転送
4. 測定画像の操作
5. 測定データを数値データへ変換
6. クイック・ネーミング機能の設定



1. InstrumentViewの起動

-FWインストールおよび起動

FWのインストール

FSH(FPH,ZVH)(以降FSH)購入時に付属で添付されている CDROMより、“Instrument View” をPCへインストールします。

インストールされたソフトウェアは下記に保存されます。

Cドライブ¥Program File¥Rohde-Schwarz¥Instrument View

(注、このソフトウェアのFWバージョンは定期的に更新されます。)

または以下のページより最新のソフトウェア.exeをダウンロードできます。

<https://www.rohde-schwarz.com/software/fsh/>



1. InstrumentViewの起動

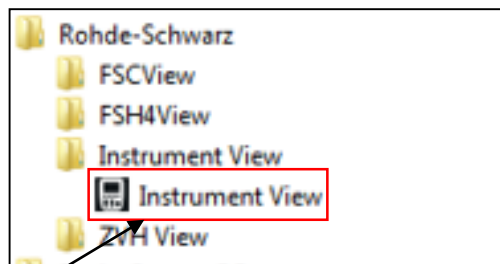
-ソフトウェアの起動

ソフトウェアの起動

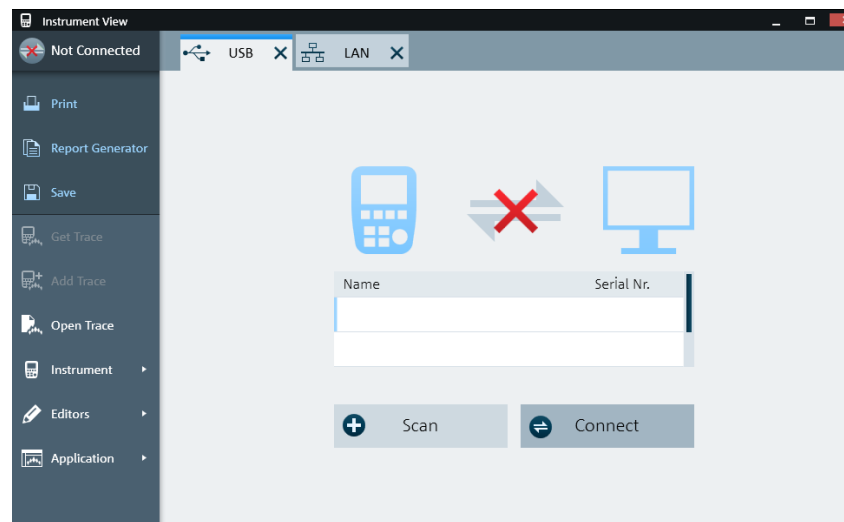
ソフトウェアを立ち上げる場合は

ウィンドウズ→All Program→Rohde-Schwarz→Instrument View

Instrument Viewをダブルクリックします。



これをダブルクリック



InstrumentViewの立ち上がり画面



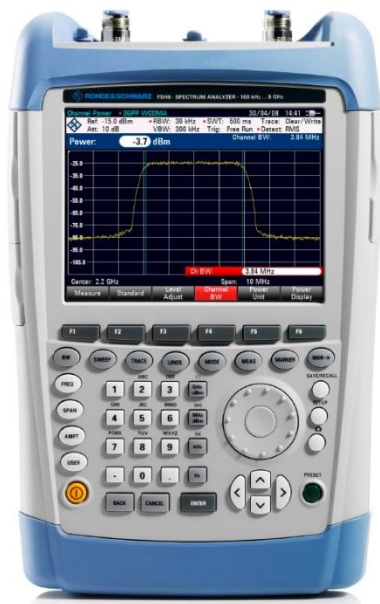
2.1 FSHとPCの接続(USB)

-USB(タイプB)-USBケーブルの接続

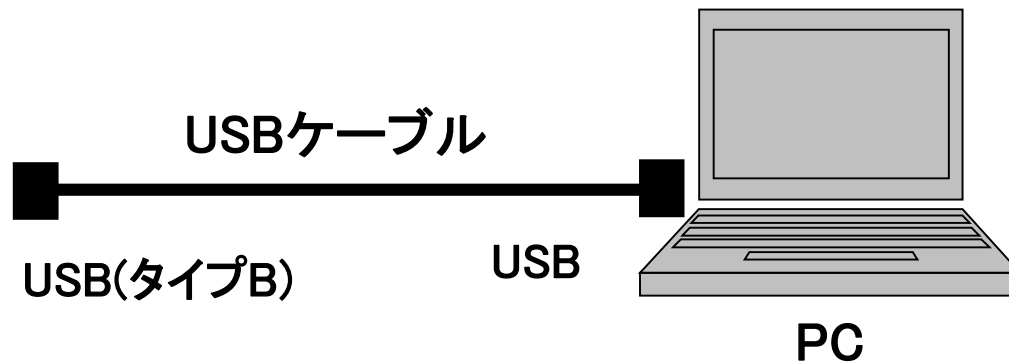
FSHとPCをUSBケーブルで接続します。

FSH側 : USB(タイプB)コネクタ

PC側 : USBコネクタ



FSH(FPH, ZVH)





2.1 FSH(FPH,ZVH)とPCの接続(USB) -FSHの設定およびInstrumentViewの設定

FSHの設定

特に設定はありません！！

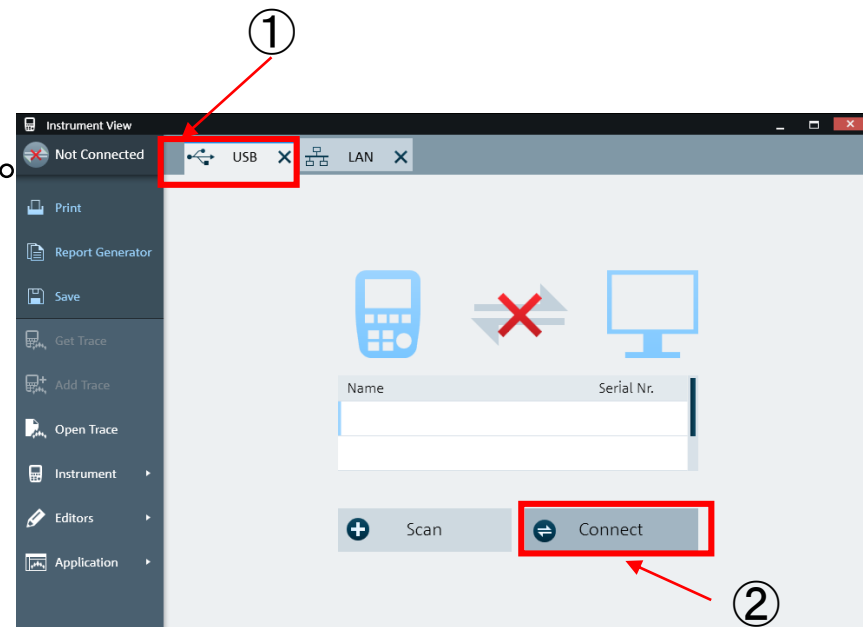
InstrumentViewの設定

InstrumentViewを立ち上げたときに設定画面が出てきます。

画面内の  を選択することでもUSB接続画面に切り替え可能です。

①USBを選択します。

②“Connect”のアドレスを選択します。

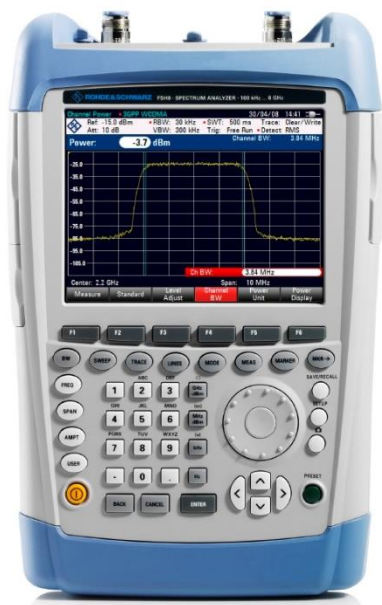




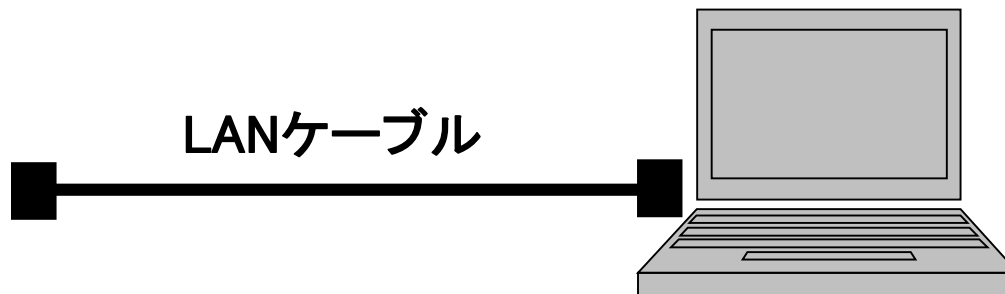
2.2 FSHとPCの1対1接続(LAN)

-LANケーブルの接続

FSHとPCをLANケーブルで接続します。



FSH(FPH,ZVH)

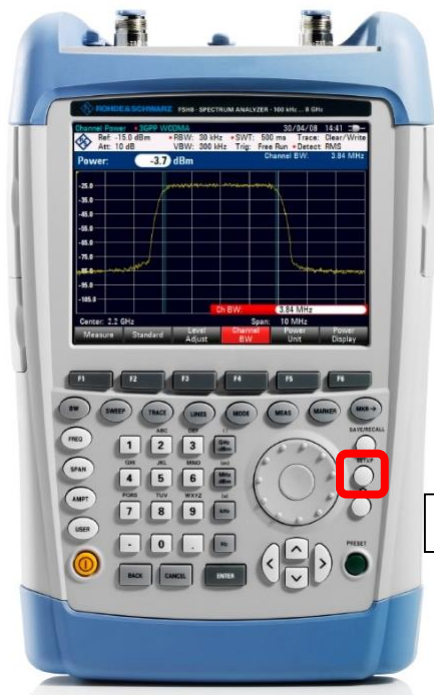


PC



2.2 FSHとPCの1対1接続(LAN) -FSHの設定

“SETUP”キー→“F2(Instrument Setup)
画面内の“LANゲート内の設定を行います。



SETUP

LAN ポート	
MACアドレス	82-00-60-0f-e8-00
DHCP	オフ
IPアドレス	192.168.1.10
サブネットマスク	255.255.255.0
ゲートウェイ	192.168.1.1
日付と時間	

DHCP	:オフ
IPアドレス	:192.168.1.10
サブネットマスク	:255.255.255.0
ゲートウェイ	:192.168.1.1

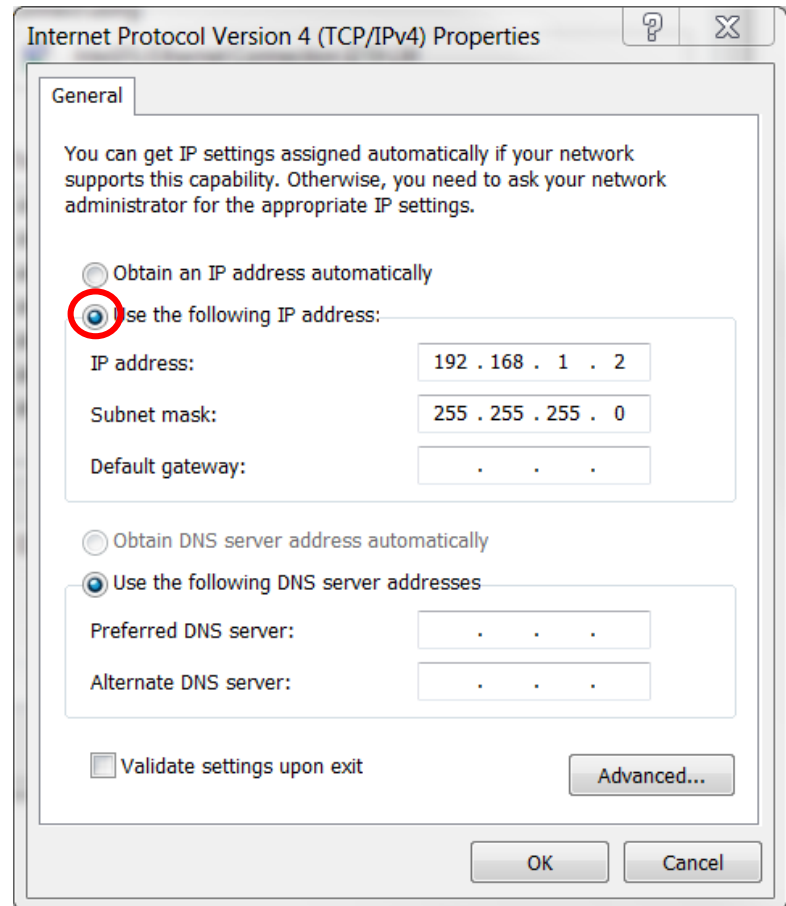


2.2 FSHとPCの1対1接続(LAN) PCの設定

PC内の“Local Area Network”
→“General”内の“Properties”→
“Networking”内の
Internet Protocol Version 4(TCP/IPv4)
を選択→“Properties”(右画面)
Use the following IP addressを選択

IPアドレス : 192.168.1.2
Subnet mask : 255.255.255.0

を設定し“OK”を押す。
(注意、LAN接続が終わった時、
Obtain an IP address automaticallyに
戻して下さい。)







2.2 FSHとPCの1対1接続(LAN)


-FSHの設定およびInstrumentViewの設定

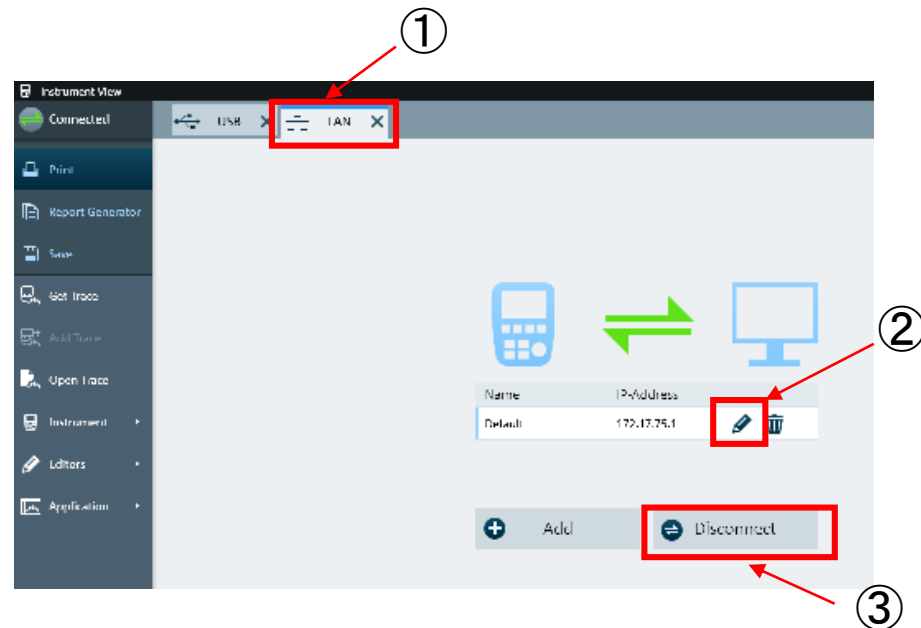
FSHの設定

を  クリックし、FSHのIPアドレスを入力してください。
FSHがデフォルト設定の場合、特に設定をする必要はありません。

InstrumentViewの設定

InstrumentViewを立ち上げたときに設定画面が出てきます。
画面内の  LAN を選択することでもLAN接続画面に切り替え可能です。

- ① LANを選択します。
- ②  をクリックして
FSHのIPアドレスを入力します。
- ③ “Connect”をクリックします。

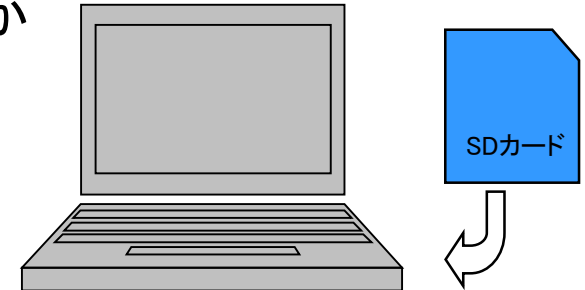




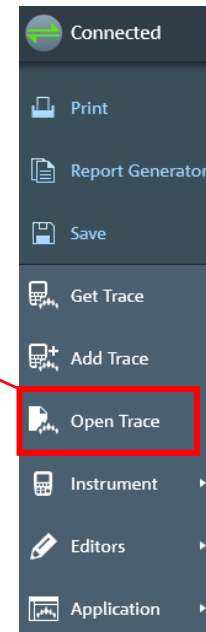
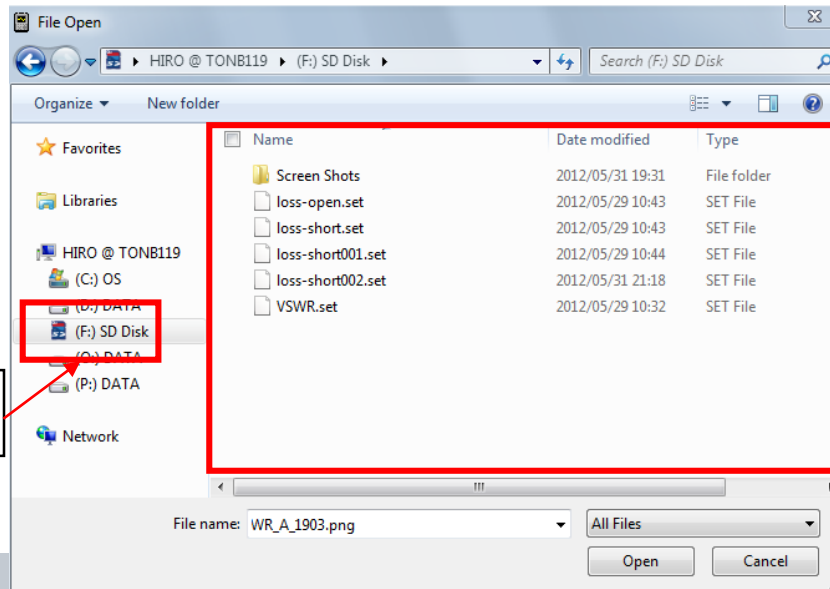
2.2 FSHとPCの接続(SDカード)

-SDカードを使用

FSHで取得したデータを保存したSDカードをFSHから取り外し、PCへ接続します。



Instrument View画面内の **Open Trace** をクリックし、SDのディレクトリ中のファイルをOpenすると、画面内にSDカードに保存されたデータを開くことができます。



SDカードのディレクトリ


SDカード内のファイル

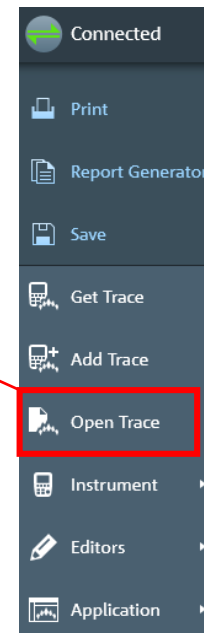
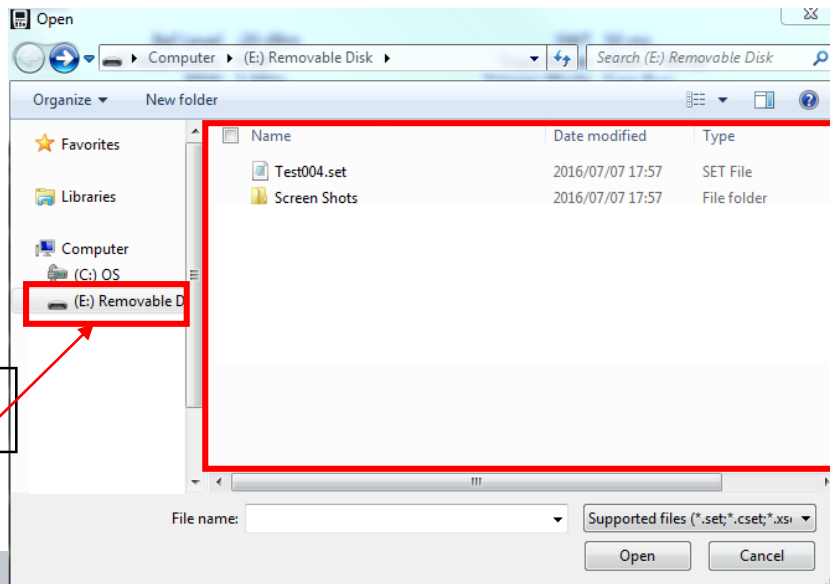
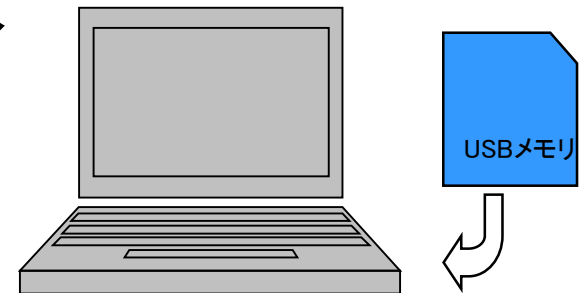


2.2 FSHとPCの接続(USBメモリ)

-USBメモリを使用

FSHで取得したデータを保存したUSBメモリをPCへ接続します。

InstrumentView画面内の  をクリックし、USBメモリのディレクトリ中のファイルをOpenすると、画面内にUSBメモリに保存されたデータを開くことができます。



USBメモリのディレクトリ

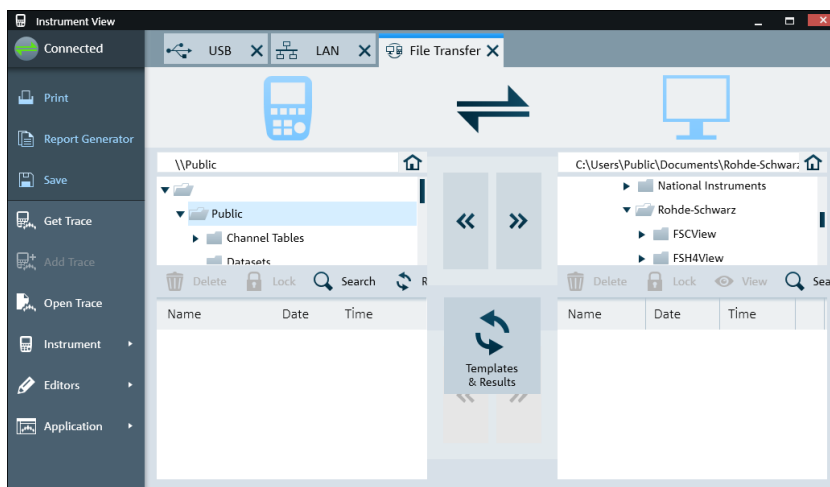
USBメモリ内のファイル



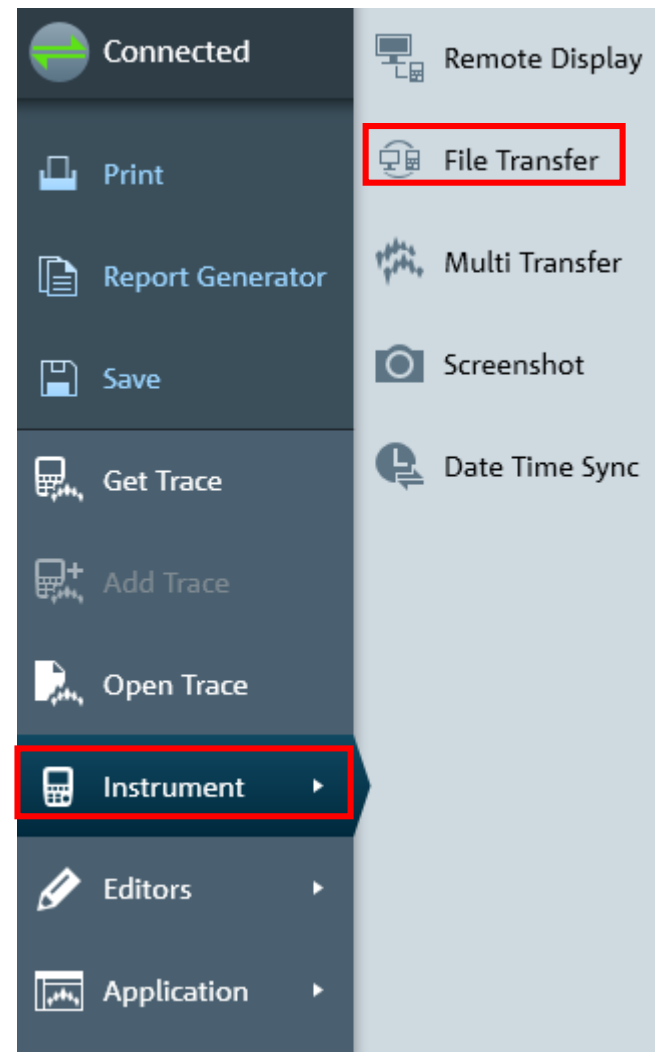
3.1 FSHメモリ内のデータ転送

-FSH内データをPCへ移行

InstrumentView画面内の **Instrument** をクリックし、**File Transfer** を選択すると画面内に“File Transfer”の画面が立ち上がります。



File Transferの画面

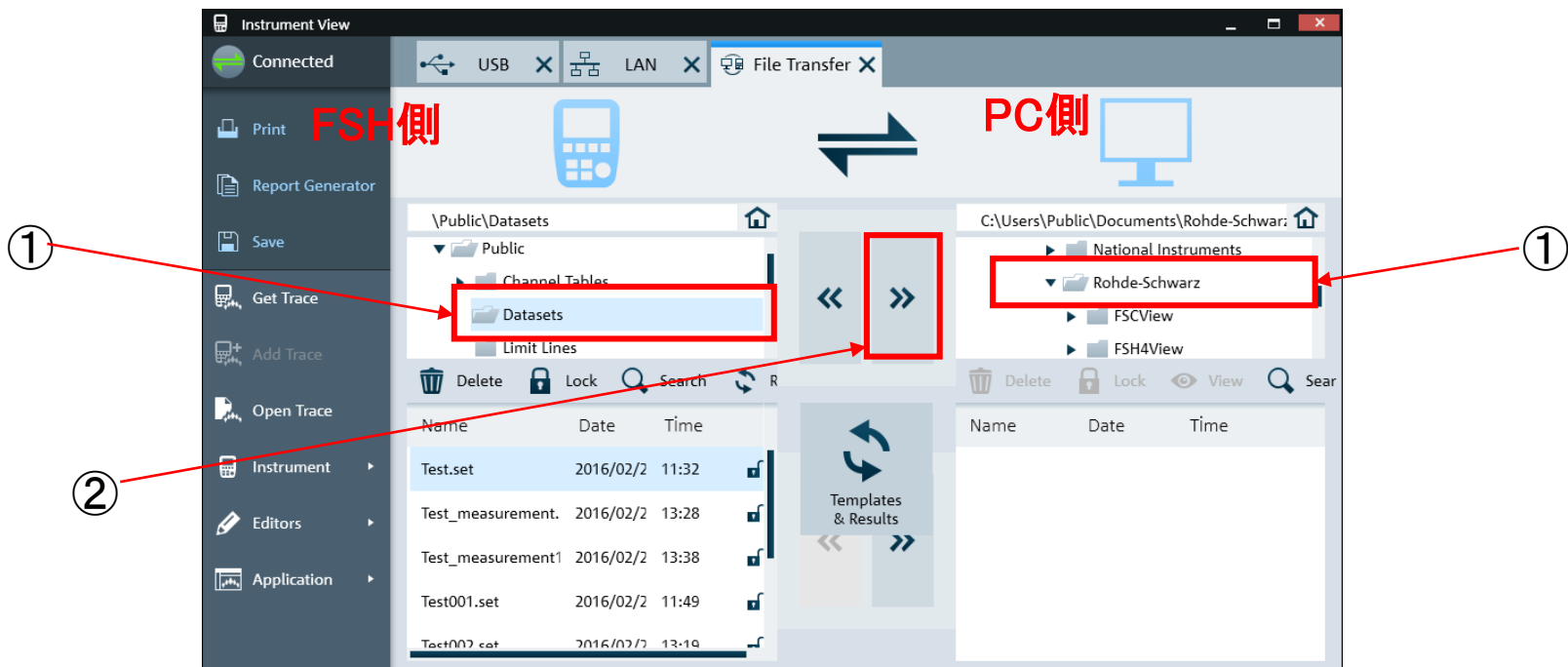




3.1 FSHメモリ内のデータ転送

-FSH内データをPCへ移行(フォルダの転送)

- ① FSHメモリ内のフォルダとPCコピー先のフォルダを選択します。
- ② 上側の“>>”を押すとFSH内のフォルダをPC内にコピーできます。

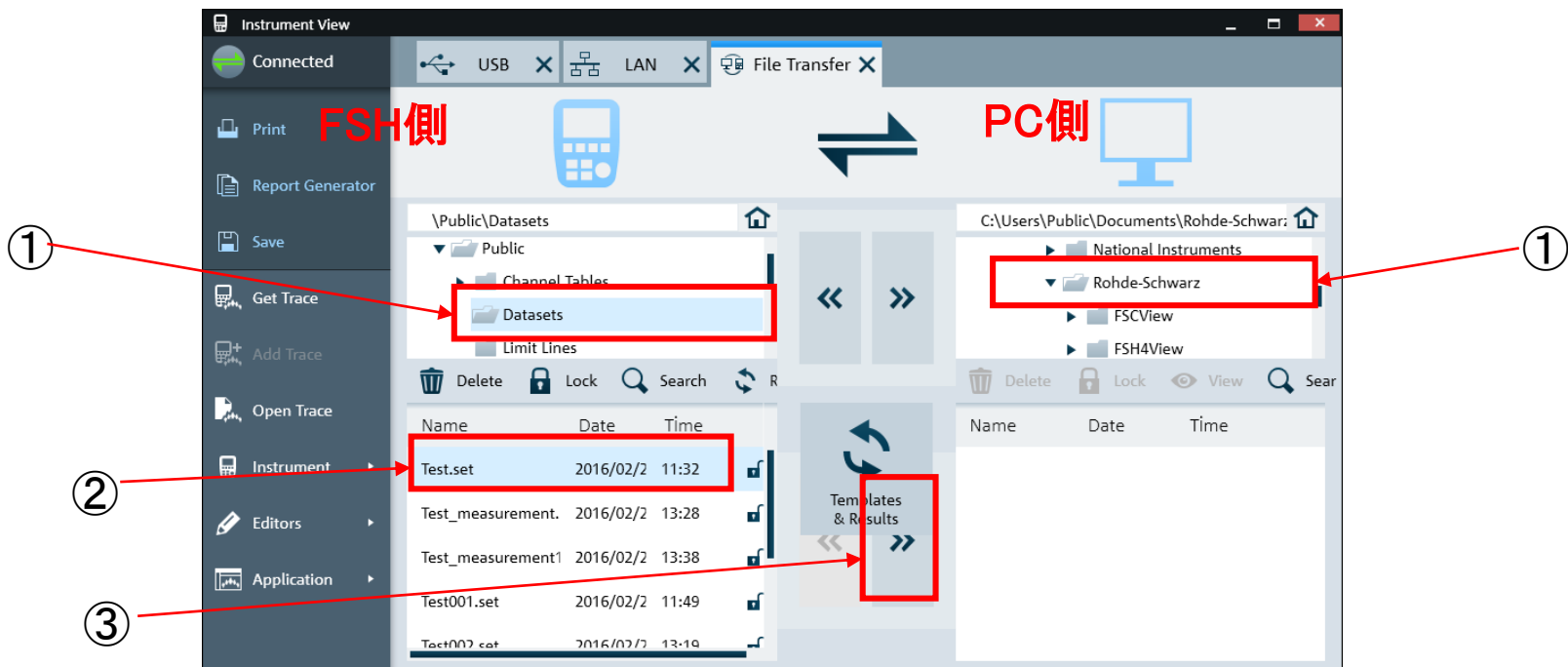




3.1 FSHメモリ内のデータ転送

-FSH内データをPCへ移行(ファイルの転送)

- ① FSHメモリ内のフォルダとPCコピー先のフォルダを選択します。
- ② FSHメモリ内のファイルを選択します。
- ③ 下側の“>>”を押すとFSH内のファイルをPC内にコピーできます。

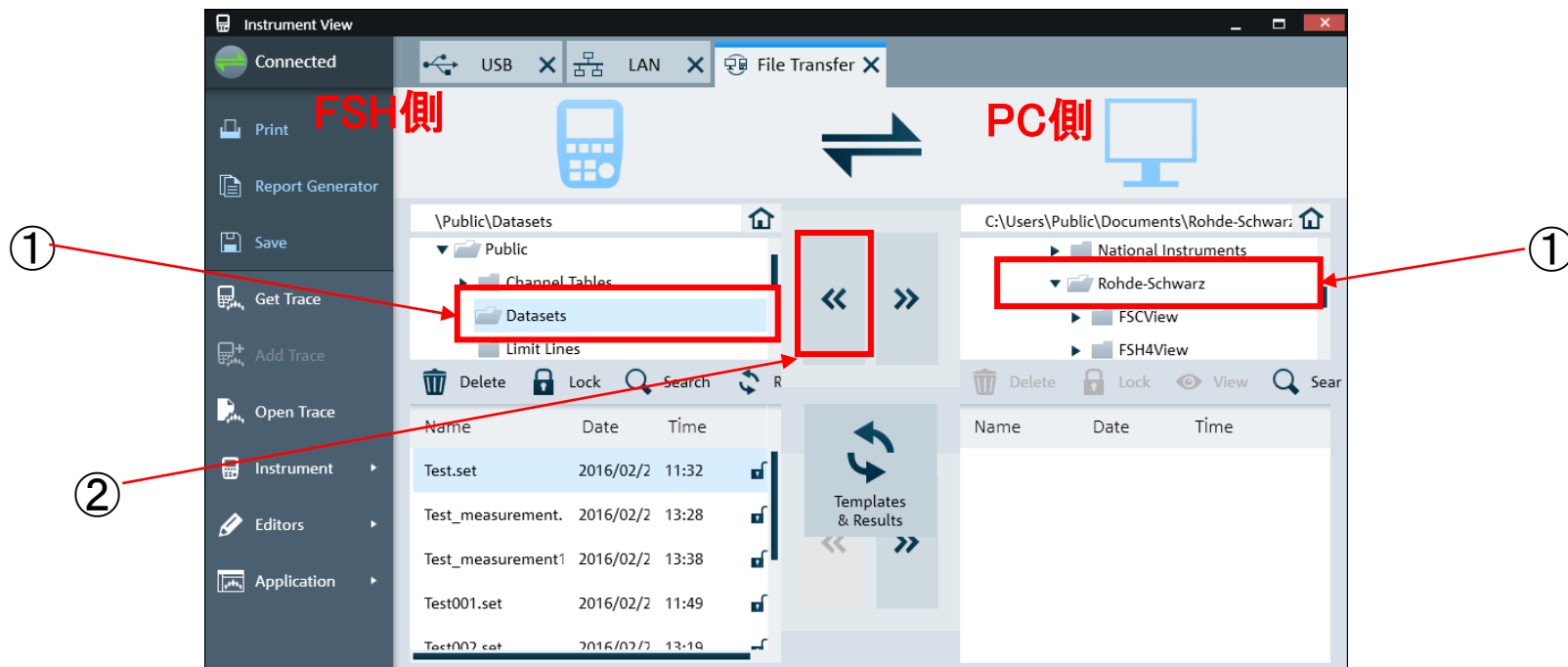




3.2 PC内データをFSHへ転送

-PCデータをFSHへ移行(フォルダの転送)

- ①PC内のフォルダとFSHコピー先のフォルダを選択します。
- ②上側の“<<”を押すとPC内のフォルダをFSH内にコピーできます。

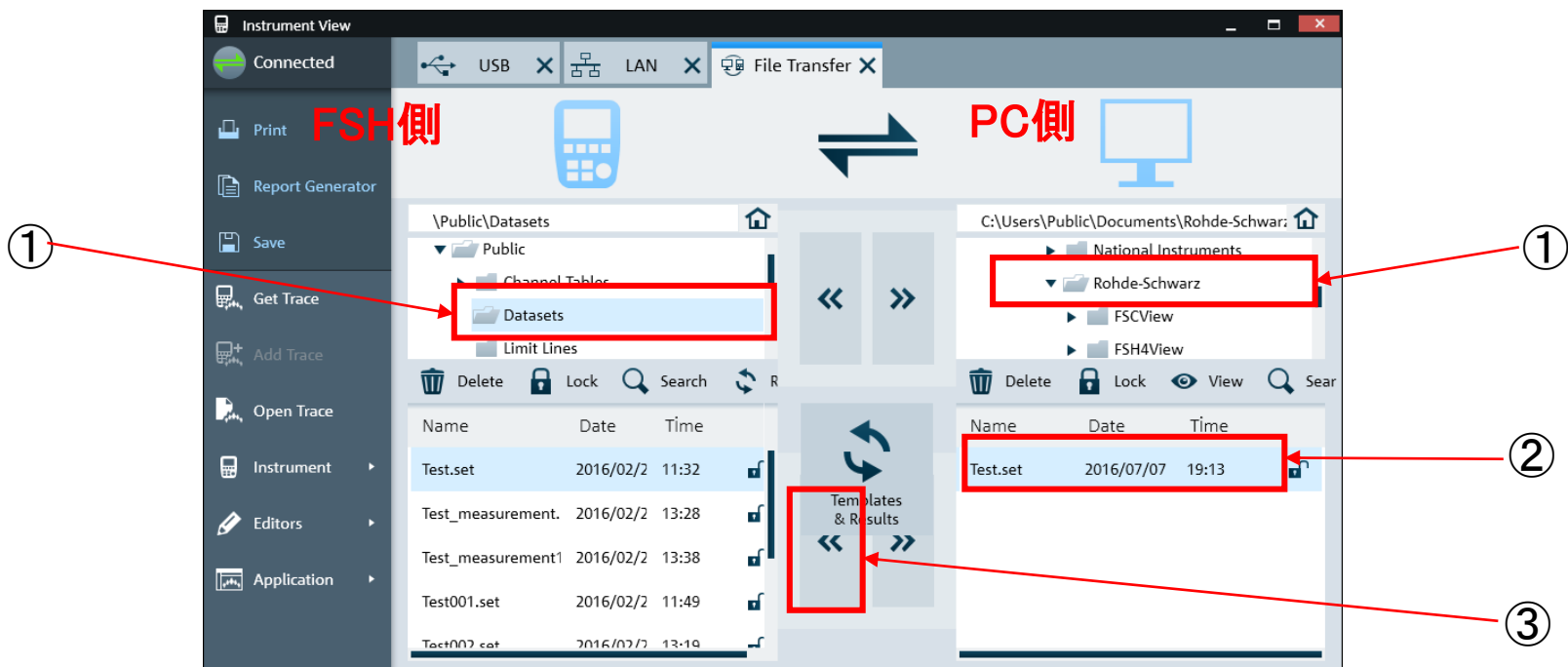




3.1 FSHメモリ内のデータ転送

-FSH内データをPCへ移行(ファイルの転送)

- ① PC内のフォルダとFSH内のフォルダを選択します。
- ② PC内のファイルを選択します。
- ③ 下側の“<<”を押すとPC内のファイルをFSH内にコピーできます。

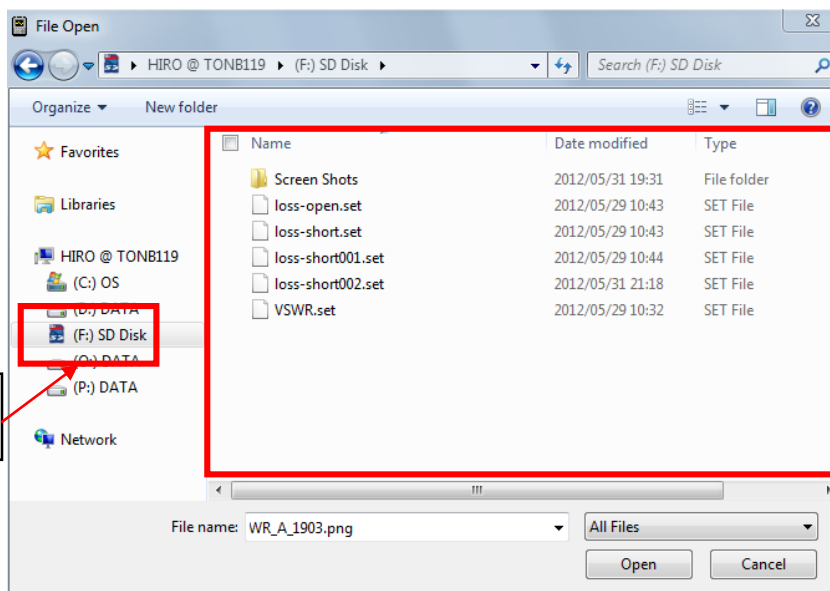
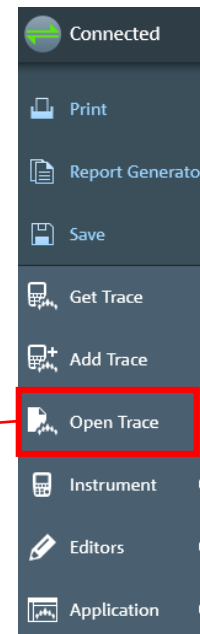




4.1 取得データの操作

-測定画面（マーカ機能）

InstrumentView画面内の **Open Trace** をクリックし、micro SDのディレクトリ中の.setファイルをOpenすると、画面内にmicro SDカードに保存されたデータを開くことができます。



SDカード内のファイル

SDカード内のファイル“*.set”のファイル名が測定画面のファイルになります。

あらかじめ“Datasets”のフォルダを作成すると事務処理が簡素化されます。

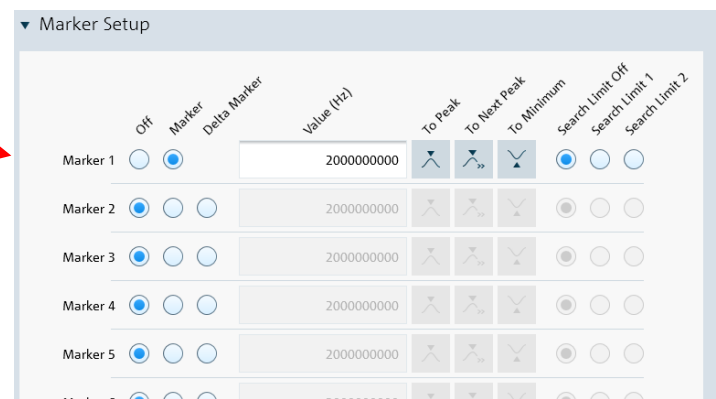
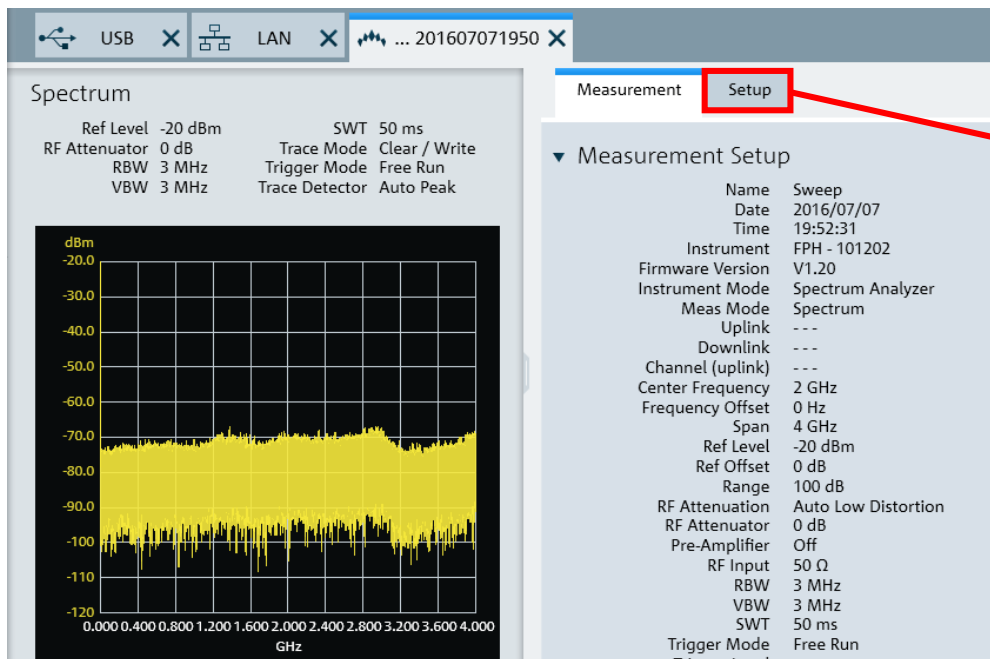


4.1 取得データの操作(マーカ機能)

-測定画面(マーカ設定)(Marker Editor)

InstrumentView画面内の“Setup”をクリックし、“Marker Setup”まで画面をスクロールすると、マーカ1～6までの設定が行え、測定画面に反映されます。

マーカごとに“マーカMAX”、“マーカMIN”、“周波数”が設定できます。



マーカを直接マウスでドラックして
マーカ位置を移動することもできます。



4.3 取得データの操作

-測定画面 からPNG画面に変更

測定画面をInstrumentViewで操作した後、測定結果の画面をPNGに変更します。

画面内“Save”をクリックします。

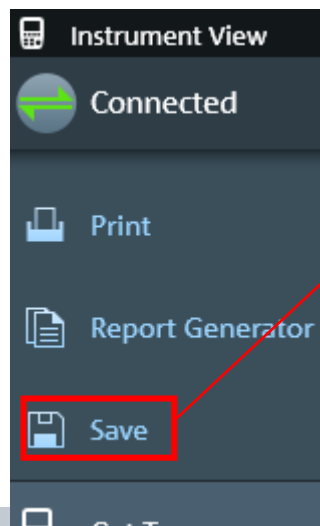
ファイルエクスプローラが立ち上がりますので

“Save as type”で

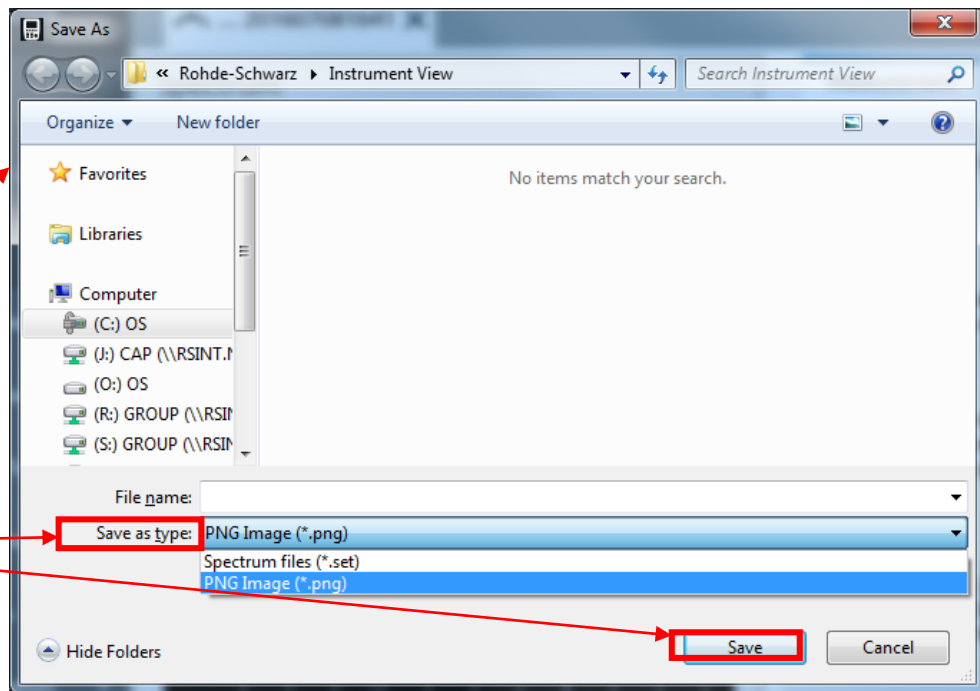
“Graphics Files(*.PNG)”

を選択し、ファイル名をつけて

“SAVE”をクリックします。



Save as typeを
選択してSave



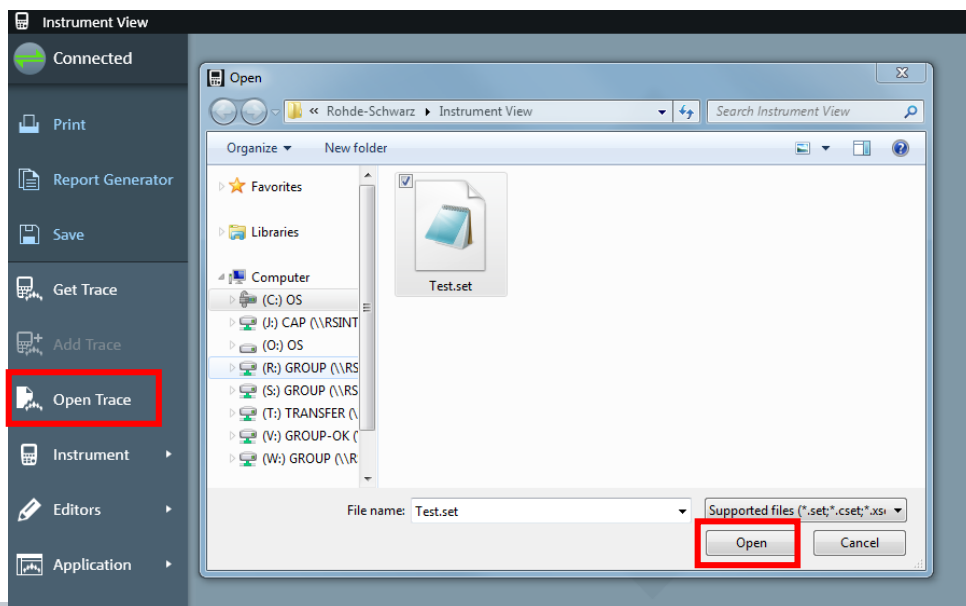


5. 測定データを数値データへ変換

– “.set”ファイルを“CSV”データへ変換

FSHでは数値データでの取得は行えない仕様になっています。測定を行い取得したデータ(“.set”ファイル)をInstrumentViewを使用して数値データ(“.csv”データ)へ変換することができます。

“Open Trace”を選択しデータ変換を行いたいファイルのフォルダを選択します。変換したいデータ(.setファイル)を選択し、画面右下の“Open”をクリックします。





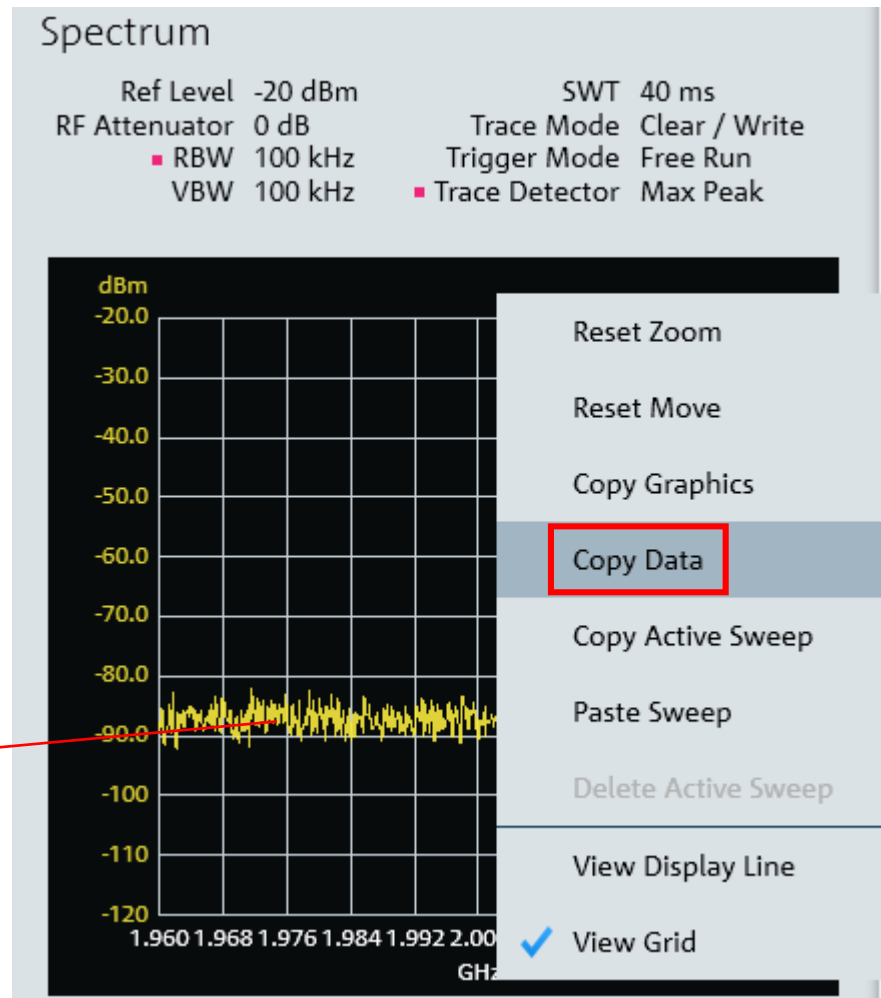
5. 測定データを数値データへ変換

– “.set”ファイルを“CSV”データへ変換

開かれたトレース画面上で右クリックし、“Copy Data”を選択します。その後、Excel等に“貼り付け(ペースト)”を行うことで、CSVファイルとして保存できます。

32	Limit Line 2	---	
33	Primary Transducer	---	
34	Secondary Transducer	---	
35	Result Limit Line 1	---	
36	Result Limit Line 2	---	
37	Average Count	---	
38			
39	Frequency [Hz]	Magnitude [dBm]	
40	0	-87.67112732	
41	112676.0563	-88.90957642	
42	225352.1127	-87.31152344	
43	338028.169	-85.15841675	
44	450704.2254	-87.16233063	
45	563380.2817	-90.77391815	

Excelへ貼り付けられた数値データ



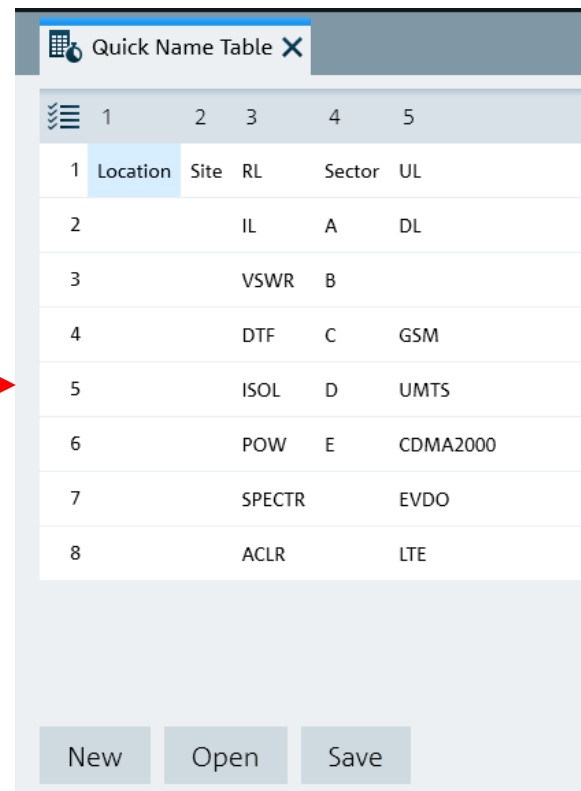
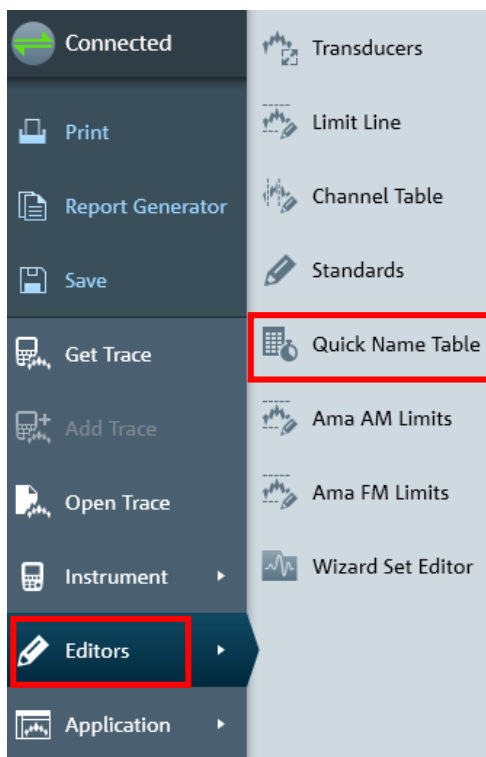


6 クイック・ネーミングの設定

-クイックネーミング(Quick Naming)の作成

測定画面保存のときファイル名の入力をテンキーからの入力ではなくあらかじめ設定した名前を選択することができます。

Tools→Quick Name Table Editor...これを選択しますとファイル名入力の画面が立ち上がってきます。





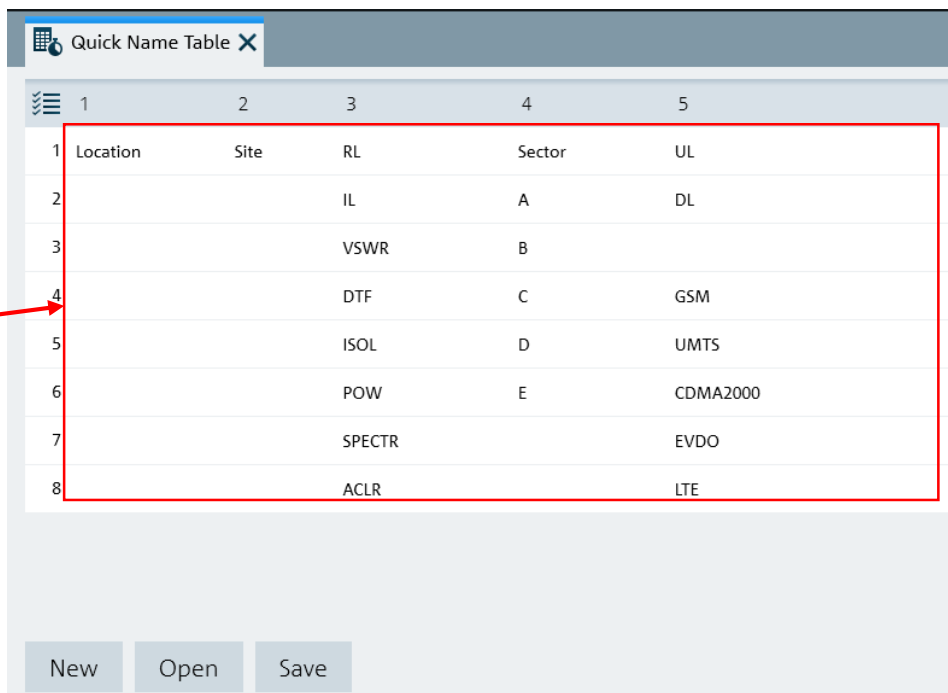
6 クイック・ネーミングの設定

-クイックネーミング(Quick Naming)の作成

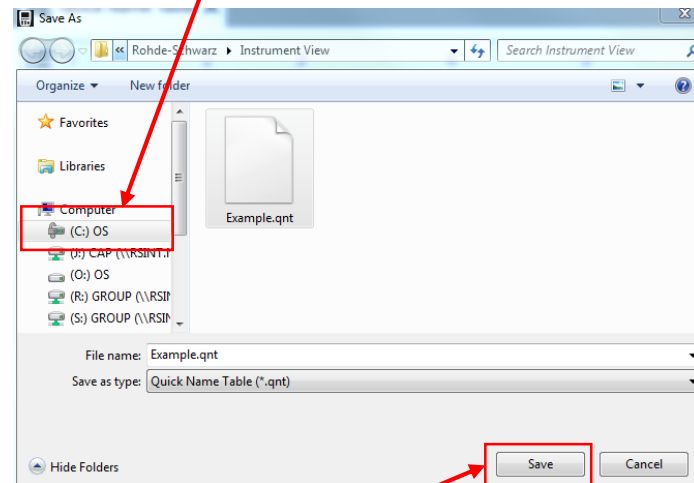
PCよりクイックネーミングの作成が行えます。

データの転送方法は3.2を参照してください。

- ①赤枠内の単語を入力します。
- ②“SAVE”を押し、保存先とファイル名を指定し、“OK”を押します。
これでクイックネーミングの作成が行えます。



②フォルダを指定



②“Save”を押す